

# POINT

## 御船町人口ビジョン

2060年の人口を

予測11,000人から

目標13,374人に設定

+2,000

## 御船町まち・ひと・しごと創生総合戦略

4つの基本目標と

6つの重点プロジェクトを軸に平成31年度まで実行

# Project

基本目標 1 御船の素材を活かし、新たなひとの流れをつくる

### 1 御船町に來なっせプロジェクト

御船にゆかりのある人や現役世代をターゲットに御船の良さの発信と受入体制づくり

### 2 御船DINOワールドプロジェクト

恐竜博物館の魅力化による集客性確保と官民一体となった観光振興策を展開

基本目標 2 住みやすさNo.1のまちを目指して、住民主体による地域づくりを進める

### 3 御船WiFiプロジェクト

自然豊かな中山間地の地域コミュニティ維持・向上の取り組みを支援

基本目標 3 御船で縁を結び、子育てしていく希望をかなえる

### 4 誰もが安心して結婚、出産できるプロジェクト

結婚したい人の出会いを応援する仕組みづくりや子育てに向かう心理的な負担を取り除く取り組み

基本目標 4 御船の特性を活かした魅力ある雇用の場を創出する

### 5 元気な農林業プロジェクト

大規模農家の農業法人化や農業法人の雇用促進、就農を目指す若者支援による担い手育成

### 6 御船で働こうプロジェクト

新たな商品開発や産業を創出して、既存産業・地元事業者の活性化で安定した雇用を創出

**5カ年の総合戦略を策定**  
町では平成27年12月、人口減少を食い止めるため、▽雇用の創出▽若い世代の結婚・出産・子育て▽ひとの流れ▽地域連携―を柱に、2060年時点まで1万3374人とする人口ビジョンと、その実現に向けた今後5カ年の総合戦略をまとめました。

をかなえる▽魅力ある雇用の場を創出する―を将来の方向性に位置づけ、合計特殊出生率を2.1まで引き上げ、転入者と転出者の人口移動を±0に均衡させる計画です。

総合戦略は、人口ビジョンを実現するために、▽御船の素材を活かし、新たなひとの流れをつくる▽住みやすさNo.1のまちを目指して、住民主体による地域づくりを進める▽御船で縁を結び、子育てしていく希望をかなえる▽御船の特性を活かした魅力ある雇用の場を創出する―を進めていきます。

用の場を創出する―を基本目標に6つの重点プロジェクトを設定しました。具体的には、▽移住定住総合窓口の設置や情報発信▽みふねっ子Uターン制度の導入▽化石ひろば環境整備▽地域おこし協力隊の導入▽若者の出会いの場創出▽廃校施設の利活用―など、全40事業を盛り込みました。

今後、基本目標を実現するため、推進体制づくりを強化して、数値目標による検証を行いながら、公表や見直しを進めていきます。



#### ●御船町人口ビジョン

人口動向の分析や将来人口推計のシミュレーションを行い、目指すべき将来の方向性と将来展望をまとめた計画。対象期間は、2060年。全24頁。平成27年12月策定。



#### ●御船町まち・ひと・しごと創生総合戦略

人口減少問題を克服するために、御船が取り組むべき4つの基本目標と6つの重点プロジェクトをまとめた計画。期間は2019年まで。全27頁。平成27年12月策定。



Special edition

# みふね予想図

御船町まち・ひと・しごと創生総合戦略

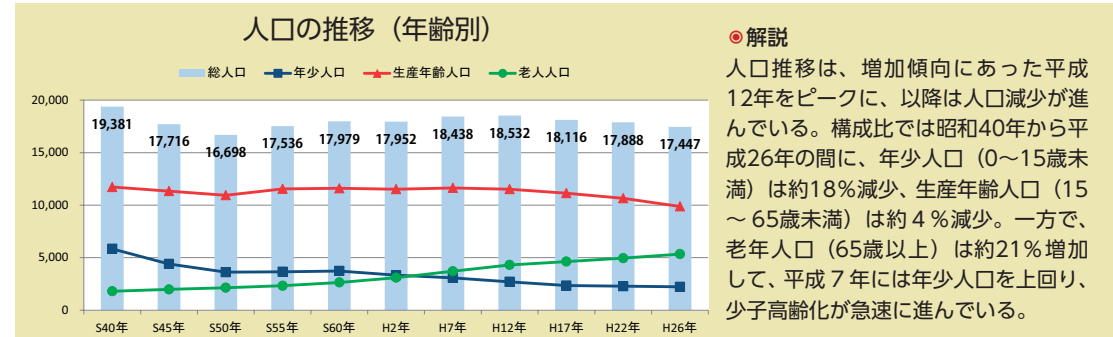
1万1千人―。これは45年後を予測した御船町の人口です。少子高齢化や出生率の低下、東京圏への人口流出が要因とされ、地方、そして日本の人口減少が急速に進んでいきます。今号では、人口減少を食い止めるため、これから町が取り組む「総合戦略」についてお伝えします。

### 深刻な人口減少問題

御船町は、昭和30年に1町5村が合併して誕生しました。当時は2万人超だった人口も、昭和40年には1万9千人超で、現在は1万7千人超と約2千人が減っています(グラフ参照)。国勢調査によると昭和55年から増加していた人口も、平成12年を最後に減少が続いています。

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、2040年には1万4千人を割り込み、2060年には1万1千人程度になると公表されています。この背景には、深刻な少子高齢化や合計特殊出生率の低下、東京圏への人口流出といった人口減少問題が要因とされます。

人口減少が進むと労働力の低下をはじめ、地方では人材不足や地域の経済規模の縮小など、地域社会の維持が難しくなると考えられます。



●解説  
人口推移は、増加傾向にあった平成12年をピークに、以降は人口減少が進んでいる。構成比では昭和40年から平成26年の間に、年少人口(0~15歳未満)は約18%減少、生産年齢人口(15~65歳未満)は約4%減少。一方で、老年人口(65歳以上)は約21%増加して、平成7年には年少人口を上回り、少子高齢化が急速に進んでいる。

資料/国勢調査(S40年~H22年)、熊本県の人口と世帯数(年報・H26)